

1 自己評価及び外部評価結果

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	2271100675		
法人名	有限会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム奄美2F		
所在地	沼津市本郷町38-6		
自己評価作成日	平成22年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2271100675&SCD=320
----------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒421-0421 静岡県牧之原市細江508-23
訪問調査日	平成22年3月5日

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

・BD企画では、1対1の対応で利用者様の希望を叶えてあげるよう努力している。 ・季節感をあじわって頂くため外出レクを行っている。 ・温泉1泊旅行を計画し、ご家族と共に外泊の機会を提供しています。 ・レク活動では、体操、ストレッチなどを取り入れ、健康維持に努力しています。
--

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

沼津市の静かな住宅地の中にあり、神社や森林など自然環境にも恵まれている。車の往来も少ないため気軽に散歩や買い物に出掛けられる。社員寮として使われていた建物を上手に利用して自宅のような家庭的な雰囲気を出している。法人の支援体制のもと管理者と職員は、利用者の思いを大切に、一日一日を楽しく安全に過ごせるようにという共通認識を持って、日頃のケアを行っている。働くことに誇りと喜びを持って日々ケアを行っており、それが利用者の明るい笑顔につながりホーム内は明るく和気あいあいとした温かい雰囲気に包まれている。壁面には行事の写真が所狭しと飾られ、家族や利用者を楽しませている。利用者の誕生日にはBD企画を実施し、利用者や家族から好評を得ている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、スタッフ全員で理念・目標を唱和する事を行っている。実施していけるよう努力しています。	職員は毎朝理念を読み上げ、理念に沿って利用者が安全で楽しく過ごせるような個別対応を心がけている。利用者と共に生き、働くことに誇りと喜びを持っている。月ごとに目標を立て、達成度を評価するといった努力もしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事開催等の告知を行い、また地域のイベント(草刈・清掃・防災訓練)に積極的に参加するよう努力している。 挨拶を励行している。	近所の神社の草取りに地域の方と混じって参加したり、地区文化センターに展示された利用者の作品を見に行くなどしている。隣家から野菜を頂いたり、散歩中近隣の方が声を掛けて下さるなど、日常的に地域との交流がなされている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などの際、相談を受け説明している。施設見学者などの方には、施設内の暮らしを見学していただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行い、活動報告、行事、日常の暮らしなどスライド、写真などを用いて知って貰っている。今後の課題や提案を検討する機会になっている。	家族、利用者、介護相談員、民生委員等の参加により、二ヶ月に一度開催している。現状報告や意見交換、外部評価の報告などを行っている。市の職員には案内状を出していない。	市の介護保険担当者にも運営推進委員会議の案内状を出し、参加を促すことを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方が月1回来所される。地域GH会議や市で行われる研修会への参加をしている。	管理者が市に出向き、利用者の現状報告、介護認定更新時の相談などを行っている。市の介護保険担当者とも顔なじみになり、声を掛け合うような関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が認識して実践している。ミーティング時、申し送り時などに注意を促している。	玄関は構造上自動ロックがかかってしまうが、不審者の対策にもなっている。庭へは自由に出ることができ、一、二階への行き来もエレベーターで出来るようになっている。階段の上り口と降り口に安全上の柵があり、圧迫感が感じられる。	階段の柵については、安全上止むを得ないが、柵と感じられない工夫を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の不注意な言動が虐待にならないよう、介護時の声掛け、支援方法などについて、ミーティングで注意している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方もいます。今後職員を外部研修等に参加させ、学ぶ機会を設けて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、訪問面接を行い、入居時は重要事項説明書や契約書に添って説明し、質問に答えている。解約時にも説明を行い解約の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人本部が管理する意見箱を設置している。月1回介護相談員が来所し、利用者の話を聞く機会を作っている。	利用者の家族が訪問する際は、必ず話を聞く時間を作り、要望が実現できるよう対応している。苦情に関しては法人本部に相談するシステムになっているが、現在のところ苦情は出ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行っている。ミーティング記録に、個々の意見が記入出来る様に工夫されている。	年に二回本部から、職員の個別面談の機会が設けられている。ミーティングでは利用者の対応について話し合い、共通の対応ができるようにしている。そのような場だけでなく、いつも気兼ねなく職員と管理者が相談できる関係作りが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績・勤務状況など、毎月代表者に報告し、把握出来る状態にある。年2回会社より個人評価表をもとに、評価が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヘルパー養成講座の受講者への支援。レベルに合わせて、社内外研修への参加を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH会議への参加で、他施設のスタッフとの交流を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のアセスメントにより、スタッフ間でのサービスの度合いを決めて、自己決定を尊重するとともに自立支援を行うための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族に、本人が何を希望しているか、どのような支援を行うことが出来るか、傾聴し説明に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の言動や生活背景などのアセスメント情報を収集し、支援作りに努めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力を引き出し、自立支援を心がけている。清掃などその人なりに、出来る形で行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者、ケアマネ、全てのスタッフが互いに意見を述べ合い、本人や家族への理解を共有する。そのうえで、家族とともに本人を支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の話を傾聴し、生活史を探り、支援に繋げている。	誕生日（BD）企画を個別に年一回開催し、利用者個別の希望に沿ったイベントを計画し実践している。ご主人とドライブに行き、カフェに寄るなどの例があった。月に一度くらいの頻度で、近くの飲食店に職員と一緒に会食に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係が良好に行くよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望時には、情報提供はもちろん、相談にも応じている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを否定せずに、傾聴の姿勢で、共感的に対応している。入浴など希望があれば、臨機応変に対応している。	日常の何気ない会話や動作の中から思いを汲み取り、ケアプランに反映させている。介護計画作成時には、利用者と話し合い納得できるものになるよう心がけている。利用者の意向がかなうよう、職員が市の広報の情報を集めるなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式への記入を、家族に依頼、ケアプランに添ってのケアに努めている。日常の会話などで得た情報など、介護記録へ記録し情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レク活動、散歩、食事作りなど1日の流れは、介護記録に記録されている。体調変化などの時は、申し送りにて報告されスタッフへ伝えられる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を伺い、必要時にはスタッフより、情報収集を行い課題を分析する。ケアプラン作成時には担当者より、意見聴取を行っている。	スタッフは利用者ごとに担当制になっており、きめの細かい情報収集が行えるため、より現状に即したケアプランが立てられる。担当者自らが介護録に青字でモニタリングし、定期的な見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特別な記録は、申し送りやミーティングで、報告検討され計画作成時に、計画見直しに活かされている。個別記録に記載されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院への付き添い、買い物外出など、状況により要望のあるものは、支援サービスしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施。ボランティアの受け入れ。近隣の商店への買い物食事外出等で交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、医療機関の確認をしている。ホームの医療機関の説明を本人、家族に行っている。体調不良時には看護師、家族へ連絡し、往診などの対応をしている。歯科往診も行っている。	入居時に以前からのかかりつけ医か提携医かを選択できる。提携医の場合は、月二回の往診と24時間体制の緊急時対応が可能である。同一法人内の看護師が週三回訪問し、健康管理に気を配っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	巡回の看護師により、健康管理を行っている。24時間体制で連絡対応が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、ソーシャルワーカーなどからの情報収集を行い、状況の把握、メンタル面など考慮し、退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、終末期の看取りについて、ホームで出来ること、出来ないことを含めて家族に説明している。意向を書面に記入して頂き、状況変化などのときは、確認再記入して頂くようにしている。	医療との兼ね合いを考慮し、みられる範囲で対応している。利用者の状況によって、可能であれば終末期対応を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの講習会へ参加している。利用者急変時などの対応は、マニュアル確認や申し送り、ミーティング等で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施。運営推進会議などで、協力をお願いをしている。	グループホーム内の防災訓練のみならず、地域の防災訓練にも利用者と職員が積極的に参加し、顔なじみの関係になっている。同一法人との協力体制ができていて、応援を頼むこともできる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄等の身体保護、声かけに努めている。記載記録時に必要な時はイニシャルで記入している。	個々の希望により名前で呼ぶこともあるが、基本的には苗字で呼ぶことで利用者の人格の尊重をはかっている。入浴は必ず一人ずつ順番に行いプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	BD企画では、本人の希望（行きたい場所、食事など）を伺い、外出の支援を行っている。レク活動、家事活動なども、無理強いせず参加を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールはおおまかにはあるが、自由参加としている。テレビ、音楽鑑賞など希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の準備などを、一緒に行う。理美容が必要な時には、本人、家族の了解を得て、理美容を利用して頂く。（理美容の手配などを含む）外出時の身支度や更衣は本人の意見を尊重しながら一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る力によって[野菜千切り、食器洗い片付けなど]参加して頂いている。	週に二回利用者と職員が車で食材を買いに行き、相談して献立を決めている。個々の持つ能力に応じて一緒に食事を作り、片付けも行う。利用者と職員が和気あいあいとした雰囲気の中で食事をとることで、コミュニケーションが深まっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の食事の内容はもちろん、食事水分を摂取していただける様な工夫、摂取できる形態に努め、必要に応じて食事介助等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、毎食後、夕と計5回歯科医の指導による、口腔ケア、仕上げ磨き及び、夜間義歯の洗浄恵を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを探り、時間確認しながら必要な方には、声掛け誘導している。尿意、便意のある方は、自立支援に努めている。	トイレに排泄板を作り、個人の排泄パターンを調べ個々にトイレ誘導をしている。誘導の際は「散歩に行きましょうか」「ちょっといいですか」など、周囲の目を配慮した言葉かけがなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家事活動、レク活動で、身体の動きを取り入れている。飲食物の工夫（繊維質の多い食物、牛乳の提供、水分強化など）等を個々に合わせて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日が決まっても、それ以外で希望のある方は、可能な限り提供できるよう努めている。	入浴表を作り、週に三回は入浴できるようにしている。毎日の入浴や、夜間のシャワー浴など個々の希望にも可能な限り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調に合わせて、居室で寛いで頂いたり、夜間入床前に足浴、温かい飲み物などを提供しリラックスして、入眠して頂けるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は、申し送りして伝えている。個人ファイルに処方箋を提示し、スタッフは薬と副作用の知識向上に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、家族面会時に、本人のできることを探り出し、引き出すように努めている。スタッフが気づき得た情報は、介護記録に記載し、ミーティングで報告、ケアプランに活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	BD企画では、本人の希望（行きたい場所、食事など）に基づき外出の支援を行っている。近所への買い物や散歩は、出きる限り実施出来るよう努めている。	近所の商店へはがきやパン、和菓子などを職員と一緒に買いにいくなど、できるだけ戸外に出る機会を多く作っている。気分転換を兼ねて散歩も日常的に行っている。普段行かれないところは、BD企画などで実現をはかっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度お金の管理ができる利用者には、希望時に買い物同行し、お金の支払い等も見守り助言を行い、能力を維持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる方については、手紙の投函への協力（一緒にポストまで）同行支援している。電話は家族、親戚とのやり取りを支援している。（家族との了解のもと）		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に努めると共に、四季の花を飾ったり、毎月の飾り付（雛飾り、鯉のぼり他）を工夫して四季を感じて頂くよう努めている。	南側に庭があり、明るく日当たりが良く、各部屋から四季折々の木々や草花を楽しむことができる。ウッドデッキが造られているため、夏は花火を見たり、ラジオ体操を行っている。庭では野菜作りを行うこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は特に決めず、思い思いの席で過ごして頂けるよう努めている。中庭にはテラスを設けて、自由に出入りして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭よりなじみのある家具類、草花の鉢、日用品（茶碗、湯呑みなど）を持って来て頂き、居室作りをして頂いています。	居室には、畳部屋とフローリングの部屋とがある。どちらにも押入れがあり、自宅にいるようなぬくもりが感じられる。時計や写真、カレンダーや座布団など利用者の馴染みの物を置き、居心地の良い空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口へ、表札、のれん、飾りなど、希望により掛けています。		